

# 地球科学投稿規程

(2018年1月一部改定)

## 投稿から印刷までの流れ

- ①原稿の投稿 → 電子ファイル（メール添付、CD等、またはダウンロード）
- ②原稿の受付 → 受付の通知（メールまたは手紙）
- ③エディターの選定：編集委員会で1名の担当エディターを選定する
- ④査読者の選定：担当エディターが2名の査読者を選定する  
→原稿の発送 →査読（1ヵ月以内） →原稿の返送
- ⑤査読内容の確認：担当エディターが査読内容を確認する  
→著者への査読結果の発送（受付後2ヵ月以内）  
→修正検討
- ⑥修正稿の返送：著者は査読結果を受け取ってから6ヶ月以内に修正稿を返送する（原稿送付先に返送）
- ⑦修正稿の受領：担当エディターが修正内容を確認する  
→再査読へ（→受理相当原稿として保管）
- ⑧編集委員会（メール審議；1週間程度）  
→受理の決定 →入稿原稿（電子ファイル・紙原図）の要求
- ⑨印刷  
→入稿 →著者校正：1回 →編集校正（2～3回）  
→印刷

## 投稿規程

### 1. 地球科学に掲載される原稿

内容が広い意味での地球科学に関連するものであり、本規程の「原稿の書き方」「投稿の手続」に合致すると編集委員会が認めたもの。

(1) **投稿資格**——投稿者の少なくとも一人は地学団体研究会の会員であること。ただし、編集委員会が原稿を依頼した場合はこの限りではない。

#### (2) 原稿の種目・内容

**原著論文 (Research Article)**：団体研究や個人研究の成果で、内容の主要な部分が他の学術雑誌に公表されていないオリジナルな研究論文。

**総説 (Review)**：個別分野あるいは広域的な地質学的研究内容や学説、あるいは研究方法を総括・解説し、研究の動向・展望をまとめたもの。

**短報 (Short Report)**：短い論文、あるいは重要な新しい発見・事実の報告。

**ノート (Note)**：研究方法や技術に関する提案、あるいは研究過程で生まれたアイデアの提案。

**討論 (Discussion)**：本誌および地団研専報に掲載された論文に関する学術的な討論。

**紹介 (Introduction)**：重要な地域の地質や岩石、地質構造、および地学現象、学説、技術などの紹介。

**資料 (Data)**：放射年代値、岩石試料の分析値、あるテーマに関する文献リストなど。

**用語解説 (Explanation of Geologic Term)**：地球科学に関する用語や用法の解説。

**フォト (Photo)**：地学現象に関する写真を中心とした短い解説。

**書評 (Book Review)**：地球科学に関する単行本やモノグラフの紹介と批評。

**地球科学の窓 (地学情報) (Earth Science Today)**：地球科学における研究の最新情報。

**その他**：上にあげたもの以外に、編集委員会が掲載を認めた事項。

(3) **原稿の用語**——日本語または英語とする。

(4) **原稿の長さ**——原著論文、総説、紹介は制限刷り頁数を16頁、最大頁数を20頁までとする。短報、討論、ノートは制限頁数を4頁、最大頁数を6頁とする。資料、用語解説、地学情報、書評は2頁までとする。フォトは原則として写真説明を含め2頁とするが、最大1頁の解説文を加えることもできる。

### 2. 日本語原稿の書き方

**原稿の書式**——ワープロを使用し、A4判に横書き36字×36行（刷り上の1/2頁分）で、上下、左右、行間に余白を十分にとる。

**文体等**——原則として当用漢字を用いる。ただし、固有名詞や慣用語はこの限りでない。難読の地名などにはふりがなをつける。本文中では学名・人名・地名・訳語の定着していない学術用語などを除き、外国語綴りを避ける。

**コマ数**——ひらがな・カタカナ・漢字・カッコ・句読点はワープロの全角文字、ローマ字と数字は半角文字とする。

**単位**——数量の単位は、原則としてSI単位および地球科学分野で慣用される単位とする。

**口頭発表した原稿**——学会・研究会等で既に口頭発表した原稿は、その旨脚注に明記する。

**所属支部、所属機関**——著者が地団研会員である場合は、その所属支部を脚注に明記する。原著論文・総説・短報・討論・紹介・資料・フォトは、著者の所属機関とその住所を日本語および外国語で表記する。団研等グループでの原稿の際も代表者の氏名、所属機関、住所を日本語と外国語で併記する。上記の原稿以外は、末尾に所属支部と氏名のみ、日本語で記す。

**英文標題と著者名、要旨**——書評以外の原稿には英語による標題、著者名を付す。原著論文、総説の原稿には英文要旨および和文要旨を、短報の原稿には英文要旨をつける。英文要旨は刷り上で1/3頁位（約300語）までとする。英文要旨の書き方は「英文原稿の書き方」にしたがう。和文要旨には和文と英文の著者名と表題をつけ、本文を600字以内とする。

**キーワード**——原著論文・総説・短報・ノート・討論には、英語のキーワードまたはキーフレーズの原稿をつける（10語以内）。

(例)

Key words : Sanbagawa, eclogite, gamet, tectonic block,  
P-T path, <sup>40</sup>Ar/<sup>39</sup>Ar geochronology, subduction

柱 (running head) ——書評・地球科学の窓以外の原稿には、  
柱 (各ページ上部欄外の見出し) の原稿をつける。著者名  
と論文表題はそれぞれ30字以内とする。

見出し——見出しには原則として番号を付けない。大見出し：  
前後1行あけてセンタリング。中見出し：ゴシック体指定、  
前1行あけてセンタリングする。小見出し：ゴシック体指  
定、左詰め改行。これ以下の小見出しは、著者が必要に応  
じてつける。

図・表・図版の作成——描画ソフトによる画像ファイル、紙原  
図とも受け付ける。図や図版の内容上大きさの表示が必要  
なものは、何分の1のような文字表示ではなく、スケール  
を図示する。手書きの図は、各図表ごとに別々の白紙に黒  
インクで製図する。図・表・図版の欄外に著者名と図・表  
・図版番号を記入する。

図・表の大きさ——原図の大きさは40×50cmを超えないもの  
とする。製版の際に縮小する場合には、文字・模様の大  
きさや線の太さに注意する。縮小率は著者が指定するが、原  
寸～70%縮小が最適である。図の最大限は、刷上り見開き  
頁 (A3判) までとし、折り込みの図はつくらない。

図・表・図版の説明——図・表・図版の説明文は文献原稿以降  
の頁に番号順にまとめて書く。説明文は和文英文併記また  
は英文とする。本文原稿の欄外に図表の挿入箇所を明示す  
る。

地形図——原図としてそのまま使用する場合は次のように明示  
する。

(例) この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図  
「東京南部」を使用したものである。

印刷字体の指定——イタリック・ゴシック・小キャピタルなど  
の字体は、ワープロの字体機能で著者が指定する。数式な  
どでは上ツキ、下ツキ、大文字、小文字等を指定する、ギ  
リシャ文字等で誤植しやすいものは赤で指示した方がよ  
い。

謝辞——謝辞が必要な場合は、文献欄の前にまとめて記す。

本文中の文献引用——下記の例にならう。

秋山 (1994) は、……  
田崎・高須 (1994) によると、……  
田切ほか (1994) は、……  
……とされている (土屋 1993, 1994; 大西 1994)。  
Hirai and Kondo (1994) ……  
Kuroda et al. (1994) ……  
…… (Ishiga et al. 1994)。

引用文献リスト——末尾に文献として一括し、著者名のABC  
……順、同一著者のものは公表年順、年が同じものはa,  
b を付けて並べる。雑誌名は、慣例的な略記にしたがう。  
欧文雑誌においては、略記の意味のピリオドは使わない。

[文献リストの例]

房総地研グループ (1963) 黒滝不整合における削剥量とその意  
義。地質雑, 69: 88-89.

藤田至則 (1973a) 新生代後期の日本列島における造構力の解析

をめぐって。地球科学, 27: 245-249.

武井規朔・村井武文・平野英雄 (1976) 関東山地北東縁部の地  
質構造。地質学論集, 13: 25-31.

比企団体研究グループ (2004) 関東山地北東縁部の比企丘陵-  
吉見丘陵-荒川河岸地域の中新統。地研専報, 52: 1-34.

藤田至則 (1973b) 日本列島の成立。築地書館, 東京, 257p.

Huzita K (1969) Tectonic development of southwest Japan in the  
Quaternary Period. Jour Geosci Osaka City Univ, 12: 53-70.

Ikebe N and Chiji M (1969) Neogene biostratigraphy and  
geochronology in Japan. Occas Pap Osaka Mus Nat Hist, 1: 25-34.

Klein GV, Okada H and Mitsui K (1979) Slope sedimentation in  
small basins associated with a Neogene active margin, western  
Hokkaido Island, Japan. In: Doyle LJ and Pilkey OH (eds),  
Geology of continental slopes, 359-374, Soc Econ Paleont Mineral,  
Spec Pub, 27.

Ramberg H (1981) Gravity, deformation and the Earth's crust — In  
theory, experiments and geological application. Academic Press,  
London, 452p.

津久井雅志・柵山雅則 (1981) 大山山麓における三瓶山起源の  
降下軽石層の発見とその意義。地質雑, 87: 559-562.

### 3. 英文原稿の書き方

原稿の書式と書き方——A4判の用紙を用い、上下・左右の余白  
を十分にとり、ダブルスペースで書く。

語学上の問題——原稿は語学的に難点の少ないものであると  
を要し、著者の責任において完全を期す。

ローマ字書きした原名——人名、地名、地層名などで日本語  
及び漢字による原名をローマ字書きした場合は、周知のもの  
を除き、文末にABC……順に、ローマ字書きと原名 (漢  
字など) を表示する。

論文の言語の表記——英語以外の言語で書かれた論文を引用  
した場合には、文献リストにおいて、その論文名の末尾に\*  
などを付し、文献欄の最後に\*などの意味を説明する。

(例) \* : in Japanese with English abstract

その他——上記事項のほかは日本語原稿の書き方にしたがう。

### 4. 投稿の手続・処理

(1) 投稿する際は原稿整理カードに必要事項を記入し、本文、  
英文要旨、和文要旨、図表・図版、図表説明文、整理カー  
ドなどの電子ファイル一式を、下記編集委員会宛に送付す  
る。なお、原稿整理カードは、地研研のホームページ  
(<http://www.chidanken.jp>) からダウンロードすることができ  
る。

投稿時は電子ファイルのみ受け付ける。紙原稿はスキャ画像に  
して投稿原稿とすること。投稿ファイルは、MS Word 形式また  
はテキストファイルとし、本文のほか図表などは原稿末尾に配  
置し、ファイル容量が10MB以下になるよう調整する。ただし、  
図が劣化し査読に支障を来すと思われる場合は、図表のオリジ  
ナルファイルを送信するよう依頼することがある。件名に「地  
球科学投稿」と書き、原稿整理カード・投稿ファイルを添付し  
たメールを下記編集委員会宛に送信するか、CD等の媒体を郵送  
する。

- (2) 原稿が編集委員会に到着した日を受付年月日、完全原稿が到着し、編集委員会が掲載を妥当と認めた日をもって受理年月日とする。原稿は受理年月日順に掲載することを原則とするが、編集の都合および全体との関係で多少変更することもある。掲載原稿には受付年月日と受理年月日を明記する。
- (3) 受け付けられた原稿は会員または非会員によって査読される。査読の結果を参考にして、担当エディターは著者に原稿の修正・訂正を求めることができる。担当エディターが著者に修正・訂正を求めて返却した原稿が、6ヶ月以上たつて担当エディターに返送されてきた時は新規投稿として扱う。
- (4) 掲載受理通知があった後に、完成原稿の1セットを編集委員会に送る。そこには、印刷字体の指示を書き込んだ本文、英文要旨、和文要旨、図表の説明、柱の原稿、キーワード、図表の原図、図版、およびそれらすべてのファイルを入れたCD、DVD等が含まれる。本文ファイルは原則として、MS Word形式、一太郎形式またはテキスト形式の文書とする。図表ファイルは、特に指定はしないが、印刷所で開けないファイルは、印刷されたものを原稿とする。
- (5) 掲載後の投稿原稿は原則として返却しない。ただし前もって請求があれば、図・表・図版の原図については返却可能

である（送料は著者負担とする）。

- (6) 図表、図版などの返送請求、カラー印刷の指示などは、原稿整理カードの備考欄に明記する。
- (7) 著者による校正は初校のみである。この際も原稿は返送されないで、必ずコピーをとっておく。
- (8) 制限頁数を超過した分については、著者が実費を負担する。フォトを除いてアート紙使用とカラー印刷は、製版と製本に関わる通常印刷時との差額実費を著者が負担する。別刷は掲載時に定職をもたない学生・院生・研究生については、50部を無料とする。
- (9) この規程で処理できない問題が生じた時は、事の性質に応じて、編集委員会、全国運営委員会事務局、全国運営委員会などで処理される。

#### 郵送投稿

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央7

産業総合研究所 地質情報研究部門気付

地球科学編集委員会

Tel. 029-861-3858

#### 電子投稿

e-mail: [chikyukagaku-ml@aist.go.jp](mailto:chikyukagaku-ml@aist.go.jp)

### 投稿にあたってのお願い（補足）

**フォトの性格：**地球科学の原稿の種目では、原著論文・総説・短報がいわゆる論文であり、学術的新規性（新しいデータ・アイデア）が必要とされます。フォトはグラビアという位置付けであり論文ではないので、新発見など学術的要素の強い写真の場合はフォトでなく短報としてください。なお、カラー印刷のフォトと短報を併用することもできますのでご活用ください。

**図表の作成：**印刷面の大きさは、1頁の片側が85×238mm、全面が180×238mmです。この外形に調和した比率の図・表を作成すると、過大な縮小がいらぬ体裁の良い図となります。1頁全面を使用する場合は、説明文を置く余地を考慮してください。表においては、適切な大きさの文字と行間隔を使って、コンパクトにしてください。

**字体指定：**投稿規程の「印刷字体の指定」では、イタリック・ゴシック・小キャピタルはワープロ機能で記入することになっていますが、下線で記入してもかまいません。イタリック字体：赤で1本の下線、ゴシック体（太字体）：赤で1本の波型下線、小キャピタル：赤で2本の下線。

**綿密な最終チェックを：**MS Word形式、一太郎形式またはテキスト形式の文書ファイル（本文、英文要旨、和文要旨、図表の説明文、柱）、図、表などの有無と中身のチェックをして下さい。

著者校正で多少の校正はできますが、校正の必要がないような完成度の高いものを提出して下さい。

**電子投稿について：**電子投稿では、MS Word書類（.docx形式）を受け付けます。MS Word以外のワープロの場合はテキスト形式にしてください。受理後の入稿時にはMS Wordのほか一太郎形式またはテキスト形式の文書ファイルでも構いません。表は.xlsxではなく画像にしてください。ファイル名は、先頭に著者名をつけ、その後にファイルの内容をつけて下さい（例：竹内本文.docx、竹内第1図.jpg、など）。

## 原稿チェック表

投稿の際には、以下の点を確認してください。

従来の投稿原稿によく見られる問題点です。これらをあらかじめチェックしてあると査読がスムーズに行え、受理も早くなります。

### 本文原稿

	観察事実と解釈は区別して記述してありますか？ 記載と考察はなるべく章または項を分けるようにし、最低でも必ず段落を分けてください。
	章（大見出し）、項（中見出しまたは小見出し）の構成は本文全体を通じて整理してありますか？
	難読の固有名詞にはルビをふってありますか？
	イタリック字体、ゴシック字体、上ツキ下ツキなどの指定はきちんとしてありますか？
	図表の挿入位置を本文原稿の右側余白に記入してありますか？
	英文はスペルチェックをしてありますか？
	文献の引用はきちんとされていますか？引用されている文献のもれや、引用のない文献はありませんか？
	未公表資料（卒論、修論、連絡紙など）が引用されていませんか？
	本文中の文献引用や引用文献リストの書式は投稿規程のとおりになっていますか？
	図表の説明文は和文英文併記または英文になっていますか？

### 図表

	図表は正確にきれいに描けていますか？
	図表の縮小率を指定してありますか？ 縮小率は図表の横幅によって決まり、1段幅85mmか、2段幅180mmが基本です。縦は最大238mmです。 図表を1ページ大にする場合は、説明文を置く余地を残してください。
	縮小したとき、文字や地紋が大きすぎたり小さすぎたり、つぶれたりしていませんか？
	地質図・地形図には必要に応じて小縮尺の索引図がつけてありますか？
	引用した図表の出典は明記してありますか？
	引用した図表を著作権者の許可なく改変していませんか？
	同じ地形基図による図や同じ形式の図表が複数ある場合、書式・凡例・縮小率は統一してありますか？
	写真は鮮明ですか？ 周囲の不要な部分をトリミングしてありますか？
	写真にはスケールのほか必要に応じて記号や矢印を記入してありますか？

## 『地球科学』の別刷り印刷代金・本誌のカラーページ印刷料金

### 1. 『地球科学』の別刷り印刷代金

		1～2p	3～4p	5～6p	7～8p	9～10p	11～12p	13～14p	15～16p	17～18p	19～20p	表紙有
～50	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+1,400
	一般	3,300	5,300	7,400	9,100	11,000	13,200	15,300	17,500	19,300	21,000	
～100	学生	3,300	5,300	7,400	9,100	11,000	13,200	15,300	17,500	19,300	21,000	
	一般	4,300	6,500	8,700	10,600	12,500	14,800	17,000	19,500	21,800	23,800	
～150	学生	4,300	6,500	8,700	10,600	12,500	14,800	17,000	19,500	21,800	23,800	
	一般	5,200	7,400	9,600	11,500	13,400	15,700	17,900	20,300	22,700	24,700	
～200	学生	5,200	7,400	9,600	11,500	13,400	15,700	17,900	20,300	22,700	24,700	
	一般	6,000	8,200	10,500	12,300	14,200	16,500	18,700	21,100	23,600	25,600	

200部を超える場合は、原則として100部あたり2,000円増とする

発送代及び梱包代金は、200部まで一律1,000円（\*北海道、沖縄をのぞく）

カラーページがある場合も、別刷り代金は変わらない

### 2. 本誌カラーページ特別料金

カラーページ特別料金：4ページまで 無料、以降4ページごとに20,000円

### 3. 超過ページ料金

「投稿規定1. (4) 原稿の長さ」の制限ページを超えた場合の超過ページ料金：1ページごとに8,000円

#### 投稿規定などの改定の要点

- ・ カラーページ特別料金は、これまでの4ページまで40,000円が無料になりました。なお、以降4ページごとに20,000円は変わりません。
- ・ 印刷用紙の見直しに伴い、モノクロ印刷コート紙は廃止されました。
- ・ J-STAGE登載のため、原稿整理カードの記載事項が追加されました。注意事項もお読み下さい。
- ・ 投稿原稿としては電子ファイルのみ受け付けます。メール添付、CD等の郵送、またはダウンロードサービスをご利用下さい。

ただし、受理後の入稿原稿としては図表は紙原稿でもかまいません。投稿用にはコンビニなどにある複合機で紙原稿をスキャンし画像ファイルを作成して下さい。

- ・ MS WordはWord2007以降形式（拡張子が.docx）を受け付けます。Word2003までの.doc形式は既にメーカーサポートが終了しておりセキュリティ上の問題があるため受け付けません。

# 地球科学「日本の露頭」の執筆ガイド

(2011年8月19日)

## 1. 性格

「日本の露頭」は、個人や団研の地質調査を論文や報告書にするにあたって、重要な意味を持った露頭を紹介するものです。また、原著論文、短報、総説とは異なり、学術的新規性（新しい発見、新しいデータなど）を持つものではありません。下の資料〔シリーズ「日本の露頭」をはじめるとにあたって〕を参考にしてください。

## 2. 形式

- ・ 1露頭(1地域)1ページとします。
- ・ ページレイアウトは縦置きとします。
- ・ 写真1~2枚を原則とし、露頭写真を大きくとってください。
- ・ 写真番号(図番号)と簡潔なキャプションをつけてください。
- ・ 露頭の位置図をつけてください。
- ・ 文献は省略して書いてください。

<例> 下総台地研究グループ(2011)地球科学, 65:155-173 ; 武井暁朔ほか(1976)地質学論集, 13:25-31.

- ・ 著者および著者の所属支部と所属機関を入れてください。
- ・ 英文のタイトル、英文の著者名はつけません。

<資料> 地球科学 2009年 63-1より

### シリーズ「日本の露頭」をはじめるとにあたって

地球科学編集委員会

露頭でみられる現象は、まぎれもない事実です。地質の調査・研究はすべて、まずは1つの露頭観察から始まるといっても過言ではありません。

地団研では長年にわたる団体研究や個人の研究によって、足でかせいだ膨大なデータが蓄積されてきました。それらの成果は「地球科学」や「専報」で公表され、「日本の地質」の刊行に至っています。一方、成果をもとに各支部では、会員向け、市民向けの巡検が展開され、「日曜の地学」の刊行が続いたことも周知のとおりです。

地質調査を進めていますと、ある露頭で、それまで疑問であったことがいっぺんに氷解する、あるいはその地域の地質の見方がわかるといった感動を経験した会員は多いと思います。また、露頭の中には、見事な堆積構造や変形・破壊構造、化石の産状など、思わず感嘆の声が上がるものもあります。

今回の企画では、このような全国に散らばっているであろう素晴らしい露頭を紹介し合うことにしました。露頭によってはいずれ開発などで消失してしまうものがありますが、その記録もしておきたいと考えます。露頭写真を見て、例えば学生が勉学や研究テーマのきっかけになる、あるいは他分野の会員にとって視野が広がっていくことを願っています。